令和８年１１月１９日
都市戦略整備委員会資料
都市整備局長寿命化対策課

「第三回　常盤橋のあり方検討会」の結果報告について

常盤橋の今後のあり方について、様々な視点から、総合的な意見を伺う「常盤橋のあり方検討会」において、架け替えを軸に、総合的に議論を深めている。

令和８年１０月２８日に第三回検討会を開催したので、その結果について報告するもの。

１　開催概要

（１）日　時：令和８年１０月２８日（水）１０時００分から１１時３０分まで
　　場　所：北九州市役所本庁舎１５階　１５Ｃ会議室

（２）構成員：地元自治会、地域活動団体、専門家等(歴史、木橋、まちづくり、観光)
　　Ｚ世代課パートナー

（３）内　容：①常盤橋の橋脚等の調査・検討結果などの報告
　　・川の中に残ったコンクリートの橋脚等が再利用できるかなどの調査・検討結果について
　　・これまでの検討会等で頂いた意見に関する検討状況について
　　②常盤橋の今後のあり方に関する意見聴取

２　検討会での報告概要

◇橋脚等の再利用に関する調査、検討結果について
・健全性を調査した結果、構造上の欠陥となる損傷は確認されなかった
・耐荷性能等を照査した結果、両岸にある橋台は現行の耐震基準に適合させる必要がある
　【結論】橋脚：再利用可能、橋台：再構築（撤去→新設）

◇概算事業費について
・橋げたは鋼製、外観に木の風合いを持たせた木装橋とし、両岸にある橋台を再構築する場合の概算事業費
　① 幅員６ｍ（現況と同程度）：約９．０億円
　② 幅員４ｍ（小倉祇園の山車が通行可能な幅）：約７．５億円

◇取り外した木材の再利用について

◇歴史や観光、賑わいづくりにおける活用について

３　構成員の主な意見

・どのような形であっても早く再建してほしい
・小倉の歴史を象徴する橋である
・常盤橋と小倉城や周辺商店街を絡め、まち歩きやイベント等で面的に活用していくことで、まちの活性化や賑わいづくりに繋がるのではないか
・橋げたは鋼製とし、木の風合いに装飾する計画が、構造面や維持管理面でも現実的
・幅６ｍで「ほこみち制度」を活用できることは、イベント等を行う上でも魅力的で、長い目で見れば幅６ｍと４ｍの事業費の差額の価値があるのではないか
・架け替えには膨大な費用がかかるため、寄附やクラウドファンディングをうまく活用する必要がある
・市民の共感や理解を得られるよう、コンセプトをしっかり示さなければいけない
・歴史やまちづくり、土木や景観の学びの場、学びの機会として活かしてほしい

構成員名簿(敬称略・五十音順)

氏名	所属・役職等
植田（うえだ）　詩生（しう）	株式会社福岡リビング　リビング北九州編集長
内田（うちだ）　晃（あきら）	北九州市立大学　副学長　地域創生学群　教授
海老原（えびはら）　佑太郎（ゆうたろう）	北九州市Ｚ世代課パートナー（大学生）
岡本（おかもと）　勝（まさる）	京町第一町内会　前会長
川本（かわもと）　澪（みお）	北九州市Ｚ世代課パートナー（高校生）
柴山（しばやま）　品子（しなこ）	長崎街道小倉城下町の会　理事
辻（つじ）　利之（としゆき）	Ｗｅ　Ｌｏｖｅ 小倉協議会　会長
永尾（ながお）　正剛（まさのり）	元 北九州市立自然史・歴史博物館　参事
松本（まつもと）　裕昭（ひろあき）	西小倉校区自治連合会　会長
渡辺（わたなべ）　浩（ひろし）	福岡大学　工学部　教授

別紙１

「第三回常盤橋のあり方検討会」資料より抜粋

これまでの検討会等での主な意見

常盤橋に関する懇話会(R7.1.31開催)

・とても深い想いがある　・歴史と文化が大事　・生活道路として利用　・地域を面と捉えることが大事
・ウォーカブルなまちづくりがキーワード　・寄附やクラウドファンディングなど、財源確保の工夫が必要

第一回常盤橋のあり方検討会(R7.3.26開催)

・常盤橋はどのような形であっても残してほしい
・木製の橋げたは補修が困難であるため、安全性を考えると早めに撤去すべき
・撤去した後は架け替えて、しっかり活用し、皆に愛され、維持管理してもらえるような取り組みを

第二回常盤橋のあり方検討会(R7.9.5開催)

・橋は次世代の負担とならない架け替えの計画が大事
・西門や擬宝珠を再現できれば、常盤橋の意味付けにプラス
・公共性の高い事業であり、事業に対する市民の共感が必要
・取り外した木材の再活用など、環境の視点で学びの場として活用してはどうか
・小倉城下町の面的な歴史、ストーリーを語る上で重要
・歴史のみならず、観光の視点でも重要
・小倉城下町にとどまらず、長崎街道の構成資産
・常盤橋には物語があり、その物語を伝え残していきたい
・常盤橋はその歴史を踏まえ、小倉城下町の面的な位置づけが大事

橋脚・橋台の再利用に関する調査・検討について

調査・検討結果

①健全性の調査結果：軽微な損傷（ひび割れや浮きなど）は確認されたものの、
構造上の欠陥となるような損傷は確認されなかった








【 橋台 】　【 橋脚(水上) 】　【 橋脚(水中) 】

橋脚・橋台の再利用に関する調査・検討について

Kitakyushu Action! 動かせ、未来。北九州市

調査・検討結果

②耐荷性能等の検討結果：橋台を再利用することは不可

平成２年の基準により設計されている下部構造の耐荷性能等を最新の設計基準により確認

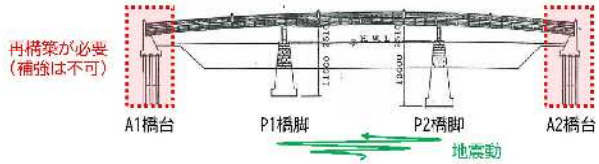
（橋の設計基準は『兵庫県南部地震（H7.1月）』や『東北地方太平洋沖地震（H23.3月）』といった大規模な地震や技術的知見、社会情勢を踏まえ、段階的に改訂）

↓

大規模な地震に対して、両側の橋台が最新の基準を満たしていないことを確認

↓

補強が不可能なため、再構築（取り壊し＋新設）が必要



※大規模な地震とは
…橋の供用期間中に発生する確率は低いが、大きな強度をもつ地震動

【結論①②】 橋台：再構築（撤去⇒新設）が必要
橋脚：再利用が可能（軽微な補修は必要）

上部工形式と架け替えに要する費用について

Kitakyushu Action! 動かせ、未来。北九州市

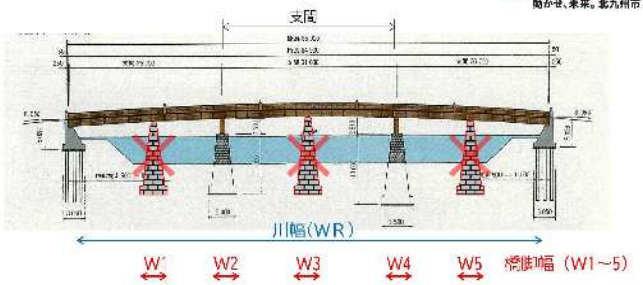
◇現況の支間（橋げたを支える間隔）ではボンゴシ以外の木材で橋げたを構成できない

◇支間を短くするためには、河川内に橋脚を増設する必要があるが...

①川の流れを阻害する（河積阻害率✕）

②流量に対して間隔が狭い（基準径間長✕）

⇒河川内に新たな橋脚を建設できない



※河積阻害率：川幅に対する障害物幅の割合（＝ΣW1～5/WR）

※基準径間長：川の流量に対して必要な橋脚間の幅

↓

橋げたは木製ではなく鋼製が現実的

↓

歴史性や文化性に配慮
欄干や外装に木の風合い 【木装橋】

概算事業費	
幅員６ｍ（現況と同程度）	幅員４ｍ（山車が通行可能）
９．０億円	７．５億円

※算出条件：橋げたは鋼製（木装）
A1，A2橋台は再構築

【市内の木装橋の事例】


四条橋（八幡東区高見）


なかよし橋（八幡東区大蔵）

【参考】道路空間の活用について

歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

◇道路への新たなニーズの高まりを受け、道路空間を柔軟に活用することができるように創設された制度
◇道路管理者が「歩行者利便増進道路」に指定した道路では、
・一定の条件下で、道路上にベンチやテーブル、露店等の物件を占用できる
・占用者は道路サポーターに加入するため、道路占用料の９０％が減額される　などのメリットがある

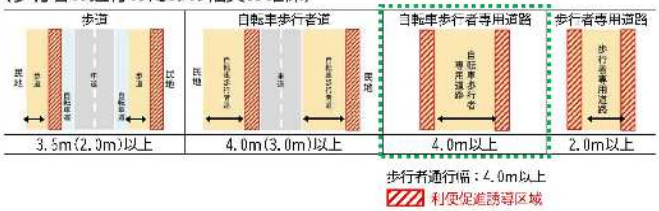


（ほこみち制度の活用イメージ）





（歩行者の通行のための幅員の確保）



寄附金の種類について

	一般寄附金（市内居住者）	ふるさと納税（市外居住者）	ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ（CF）型ふるさと納税	一般寄附金（市内企業）	企業版ふるさと納税（市外企業）
寄附者	個人			企業	
制度概要	―	ふるさと等の地方公共団体に感謝や応援する気持ちから寄附を行い、寄附者は税控除などを受けられる制度	地方公共団体が抱える課題の解決や地域活性化のため、特定の事業やプロジェクトに対して共感した方から寄附を募る、ふるさと納税制度を活用した仕組み	―	地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から特別な税額控除を受けられる仕組み
税額控除の仕組み	寄附額のうち2000円を越える部分について、所得税と住民税から原則として全額控除（所得に応じて上限あり）			法人税の損金算入により約３割控除	法人関係税から最大で寄附額の約９割控除
返礼品	無	有	有／無（選択可）	無	

取り外した木材の再利用について

【これまでの検討会等での意見】

①常盤橋の歴史にまつわる形での再活用
（装飾や門など）



豊国名所
（北九州市立歴史博物館発行より抜粋）

②新たな形での再活用（ﾍﾞﾝﾁ，ﾃｰﾌﾞﾙ等）

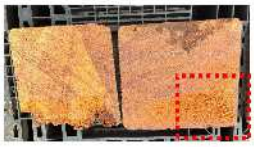




※写真はボンゴシ材ではありません

【検討事項】

・経年変化による強度等の品質のばらつき及び品質の確認方法（内側から腐朽）



（腐朽部拡大）



・健全部は硬く、細かな加工が困難
・再生木材での活用は、過去に使用した防腐剤等の化学物質による品質への影響が懸念

※内生木材：木材プラスチック内生複合材





再生木材施工例（鉄ユコウッドHPより）

調査・検討を継続

常盤橋の活用について（歴史・観光・賑わいづくり等）

北九州風景街道（長崎街道）推進協議会

◇北九州風景街道とは、江戸時代の街道の面影が残る木屋瀬、黒崎、小倉、大里を通る長崎街道や門司往還、大正ロマン漂う門司港レトロを中心にした延長約４０キロメートルのルート
◇平成１９年１１月に地域団体や行政で組織する『北九州風景街道（長崎街道）推進協議会』を設立し、現在は４１の団体、機関で構成され、官民協働で活動を実施

【取組内容】
・街道沿線の情報発信と観光振興　・歴史文化の掘り起こし
・次世代への継承　・美しい風景の保存整備
・まちづくりの調査、研究、企画、提言
・様々なまちづくりやイベント活動　・団体相互の情報交換や連携



